

279. 稲里遺跡の炭化米 出土土坑について

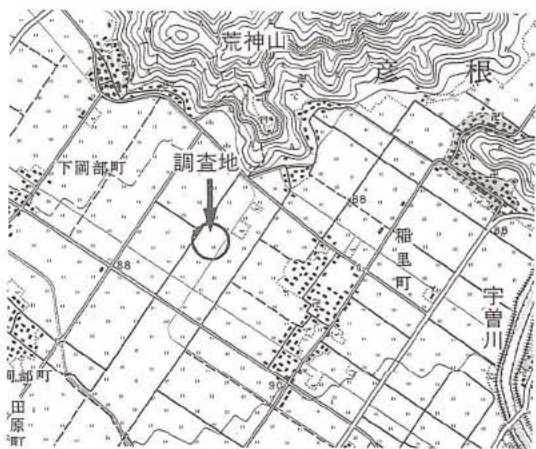
稲里遺跡は彦根市南部の上岡部町、稲里町に所在する弥生時代～平安時代の集落跡である。県営農道整備事業(稲村山地区)に伴って実施した今年度の発掘調査で平安時代の流路や弥生時代前期の土坑が確認された。この土坑から炭化米を含む植物種子が検出されたため、取り急ぎ報告したい。

稲里遺跡は白鳳寺院として著名な屋中寺廃寺が立地する微高地の南側に位置する。この約600m西側には下岡部廃寺が知られており、その付近からも縄文時代晩期末頃の深鉢片が出土している^①。

今回確認した土坑2は直径1.5m、深さ0.35mを測る円形土坑である。土坑では炭を少量含む暗灰色粘土層の下に、種子や土器を多量に含む黒色炭層がみられ、その下に焼けていない灰色粘土層が確認された。炭層の上には厚さ2cmほどの赤橙色の焼土塊がブロック状に存在しているものの、底面や壁がまったく焼けていないことから、内部で火が焚かれたのではなく、炭や焼土が投棄されたものとみられる。

出土遺物

遺物は炭層を中心にみられ、コンテナ1箱分の弥生土器や石器とともに多量の炭化種子や小動物の焼骨が出土した。



調査位置図

弥生土器は広口壺・無頸壺や鉢、甕が出土した。広口壺は頸部に幅の広い削り出し突帯をもち、突帯上に4条の沈線を巡らせる(4)や、肩部に多条の沈線を巡らせる(3)などがみられた。いずれも第1様式新段に属するものである。無頸壺(5)は広口壺を頸部で切ったような形を呈し、口縁部に2個の片口状の突起をもつ。腹部に2条の貼付け突帯をもち、その上下に沈線を巡らす。

鉢(2)は器壁の厚い直口のもので、外面に粗い条痕文が施されている。水神平式土器ないし、その影響を受けたものであろう。

甕には口縁端部に刻目をもち、頸部に3～5条の沈線をめぐらせるものが多い。口縁端部の刻目はヘラ状工具によるものが多いが、貝殻状工具(6)によるものもみられた。(6)は頸部に半切竹管による4条の沈線をめぐらせ、体部外面に細かい条痕文がみられる。

石器にはサヌカイト製の石錐や微細剥離をもつ剝片とともに石皿が確認された。石皿には河原石を利用した砂岩製のもの(7)と湖東流紋岩の板石を使用した(8)がある。(7)は使用により両面が磨耗している。

土坑内の炭化種子の種類を明らかにするとともに、これらが人為的に土坑へ投棄されたものか、周辺に生えていたものが混入したものを確認するため、種子同定と埋土の花粉分析をパレオ・ラボに委託した^②。

種子同定では次のとおりの結果を得た。

木本：キイチゴ属・核1、マタタビ属・炭化種子1、未炭化種子1

草本：イネ・炭化胚乳4、アワ・炭化胚乳45、キビ・炭化胚乳3、エノコログサ属・炭化穎果1、カヤツリグサ属・果実1、ホタルイ属・果実1

また、その他のサンプル土を整理調査において水洗したところ、多量のクルミ属の核やブドウ属の種子1点といった食料となる個体が新たに確認された。イネの胚乳も約150点を数えた。イネの胚乳の大きさはおよそ長さ4.3mm、幅2.7mm、厚さ2.0mmである。

次に、花粉分析では花粉化石の保存状態が悪いものが大半であり、樹木花粉の産出個体も少なかったため、周辺の植生の推定はできなかった。しかし、イネ科の花粉が全体量の半数を越えており、水田雑草のミズアオイ属の花粉も若干量検出された。周辺に水田が存在した可能性は高いといえよう。一方、クルミ属やマタ

タビ属など核・種子が発見された樹木の花粉はまったく検出されなかったことから、土坑近隣に自生していた可能性は低いとみられる。おそらく、これらの実は食料として採集されたものであろう。

まとめ

稲里遺跡土坑2の調査では炭化米や水田雑草の花粉が確認でき、湖東平野北半において弥生時代前期末には水田稲作が行なわれていたことを間接的に明らかにできた。また、同時に出土したアワやキビの種子は水稲農耕と同時に雑穀を対象とする畑作も行なわれていたことを示している。その一方、クルミ、ブドウ、マタビなどの種子は弥生人達が依然として、堅果類や果実を多く食していたことを示している。

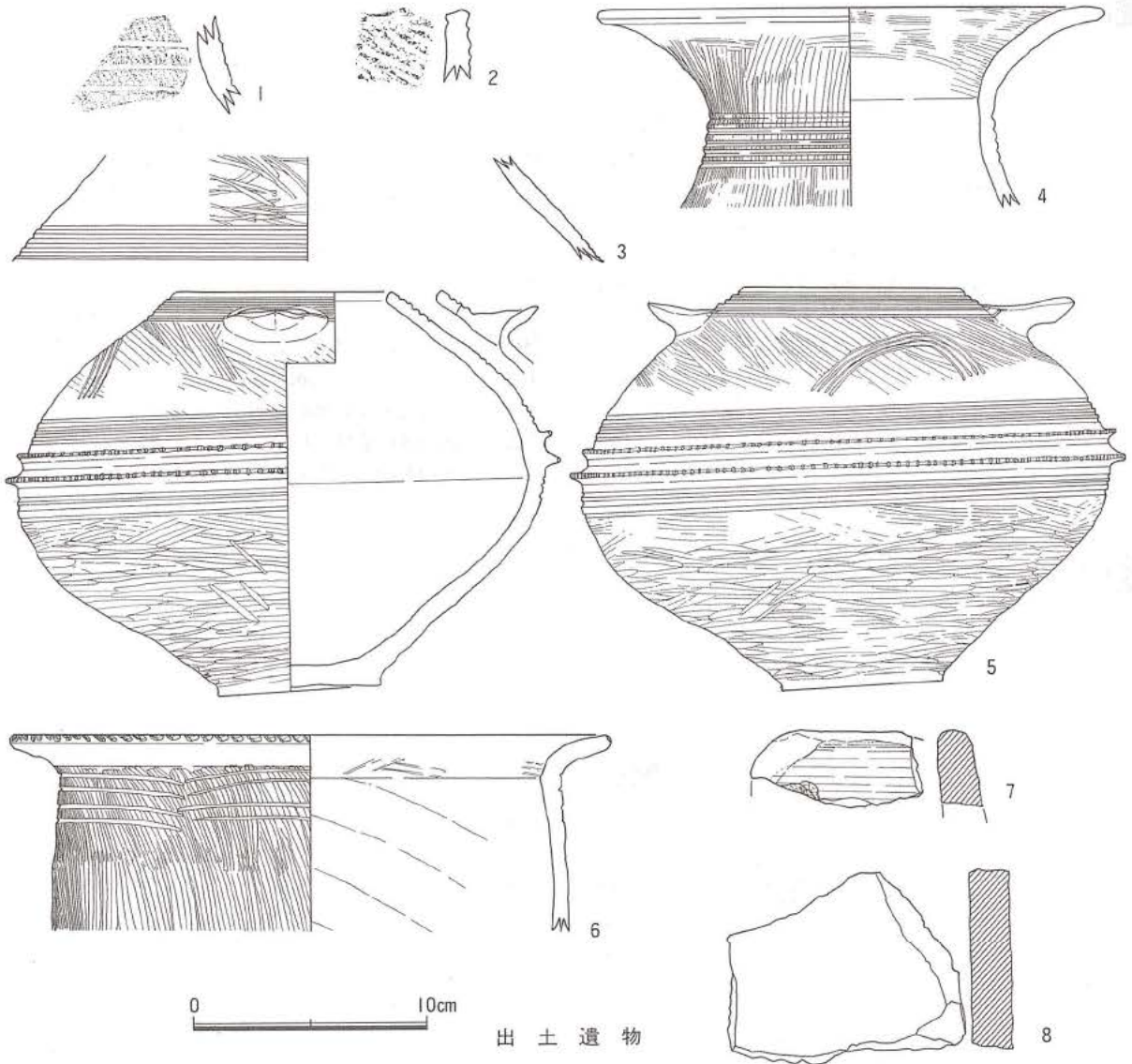
種子の全体量がまだ把握仕切れておらず、なおかつ、

どういった理由でこれらの種子が焼かれて土坑に投棄されたかが不明であるため推論は差し控えたいが、弥生時代前期に湖東平野の住人達が弥生文化の根幹をなす水田稲作や畑作という栽培農業を行う一方、縄文時代以来の採集活動にもかなり深く依存しながら生活していたのではないかという感触を現在持っている。最後に、委託したもの以外の種子同定を行なっていた中川治美氏に感謝の意を表したい。

(北原 治)

注

- ①北原 治『屋中寺廃寺遺跡』滋賀県教育委員会・朝滋賀県文化財保護協会 1998
- ②分析はパレオ・ラボの高山雅広氏が実施した。分析結果は報告書に掲載する予定である。



280. 縄文時代晩期土器棺墓の埋設方法について

1. はじめに

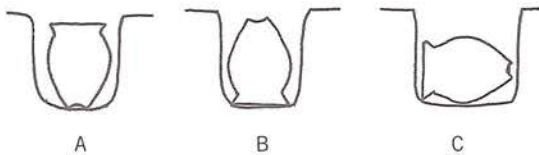
縄文時代晩期墓制の一つの特徴に土器棺墓の存在が挙げられる。筆者は、すでに近畿地方を対象にこの時期の土器棺墓について若干の分析を行った^①。これらの分析の際には、今回取り上げる埋設方法については一切触れていない。

埋設方法は古くから注目されてきた土器棺墓の属性である。滋賀県今津町北仰西海道遺跡の調査を行った葛原秀雄氏は、同遺跡の調査結果から滋賀里III b式段階までは、正位埋設が存在していることを指摘した^②。その上で滋賀里III b式段階の正位埋設は、後期の埋設につながる要素であるとし、横位埋設に比べて时期的に古いことを示唆している。

近畿地方における縄文時代晩期の埋設方法については、葛原氏以外に目立った発言が少ないのが現状であるといえる。そこで縄文時代晩期の土器棺墓について、近畿地方を対象として、その特徴を探ってきたい。

2. 埋設方法の分類

今回の分類では、正位、逆位、横位に分けた。斜位については、極力正位、横位に分類した(第1図)。



第1図 埋設方法模式図

- A…土器の口縁部を上に向けて埋設するもの(正位)。
 B…土器の口縁部を下に向けて埋設するもの(逆位)。
 C…土器の口縁部を横または斜めに向けて埋設するもの(横位)。

3. 時間的変遷と地域色

埋設方法のわかる縄文時代晩期から弥生時代前期の土器棺墓は、近畿^①府四県で、61遺跡227例が存在している。これらの埋設方法の一覧は第1表のとおりである。時期別に見ていけば、滋賀里I・II式はAが2例、Cが3例、滋賀里III式はAが19例、Bが1例、Cが87例、滋賀里IV式はCが35例、船橋・長原式はAが3例、Bが1例、Cが66例である。また、弥生前期はAが1例、Cが9例あるこのことから以下のことが指摘できる。

全体を通してみた場合、Cが最も多く、Bは2例と極めて稀であり、近畿地方ではあまり採用されていないことがわかる。Aは葛原氏の指摘と合致するように

滋賀里III式に多く、それ以降は少なくなっているといえる。時間的な様相とは別に地域的な様相も認めることができる。Aは滋賀里III式に近畿一円にほぼ分布するのに対して、凸帯文期には京都・滋賀にしか認められない。また、Bについては大阪府柏原市域の2遺跡にしか存在しておらず、この地域の特徴であるといえる(第2図)。



第2図 埋設方法の地域性

4. まとめ

埋設方法について簡単に紹介してきた。時間的な変遷と地域性を認めることができる。地域的な面では、東海地域に近接する滋賀県・京都府あたりでAが晩期末まで残存している。これらが後期以来の埋設の要素が残存しているのか、新しい要素なのか十分に検討する必要がある。また、Aに変わってCが増加する現象も後期前葉に見られるものとの関連とらえるのか、他地域からの影響で、この現象が起こったのか、今後明確にしていかなければならない課題といえる。

なお、紙面の都合から第1表に集成した遺跡の出展文献は省略している。(中村 健二)

註

- ①拙稿1991「近畿地方における縄文晩期の墓制について」『古代文化』第43巻第1号、古代学協会
 拙稿1993「土器棺墓よりみた近畿地方縄文晩期後半の地域色について」『滋賀考古』第10号、滋賀考古学研究会
 ②葛原秀雄1987「北仰西海道遺跡の調査」『今津町文化調査報告書』、今津町教育委員会

左2. 埋設 → 埋設
 左2. 埋設 → 埋設
 左8. 埋設 → 埋設
 左36. 一府四県 → 二府四県
 右34. 出展 → 出典

第1表 埋設方法一覽表

No.	遺跡名	府県	時期	埋設方法				No.	遺跡名	府県	時期	埋設方法			
				A	B	C	計					A	B	C	計
1	山田	三重	馬見塚			1	1	31	鴨田	京都	弥生前期			1	1
2	蛇亀橋	三重	五貫森 馬見塚			3	3	32	開田	京都	弥生前期			1	1
3	天保	三重	五貫森			1	1	33	耳原	大阪	滋賀里III 長原 弥生前期	3		7	10
4	北一色	三重	稻荷山			4	4	34	津之江南	大阪	弥生前期			1	1
5	屋敷	三重	馬見塚			2	2	35	長原	大阪	長原 弥生前期			10	10
6	北仰西海道	滋賀	滋賀里III 滋賀里IV 船橋・長原	5		44	49	36	馬場川	大阪	滋賀里I	2			2
7	弘部野	滋賀	滋賀里III 長原	2		3	5	37	日下	大阪	滋賀里III	3			3
8	弘川	滋賀	長原			1	1	38	土師の里	大阪	滋賀里III			1	1
9	杉沢	滋賀	長原・馬見塚			5	5	39	国府	大阪	弥生前期			1	1
10	久徳	滋賀	長原			1	1	40	大泉	大阪	滋賀里III		1		1
11	尼子	滋賀	長原	1			1	41	本郷	大阪	長原		1		1
12	築瀬	滋賀	長原			1	1	42	西大井	大阪	滋賀里I・II			/	1
13	下羽田	滋賀	長原			4	4	43	伊賀	大阪	滋賀里III			1	1
14	布勢横田	滋賀	長原			1	1	44	鈴の宮	大阪	滋賀里III			1	1
15	日吉	滋賀	長原	1			1	45	西浦橋	大阪	長原			1	1
16	木流	滋賀	長原			1	1	46	万町北	大阪	滋賀里IV			1	1
17	麻生	滋賀	長原			1	1	47	鳴神	和歌山	滋賀里IV			1	1
18	後川	滋賀	長原			1	1	48	川辺	和歌山	滋賀里IV			6	6
19	志那湖底	滋賀	滋賀里I・II 滋賀里III			1	1	49	東野	和歌山	滋賀里III 滋賀里IV			3	3
20	穴太	滋賀	滋賀里III 滋賀里IV 船橋			1	1	50	溝の口	和歌山	滋賀里III			1	1
21	滋賀里	滋賀	滋賀里III 滋賀里IV 船橋・長原	4		11	15	51	大田・黒田	和歌山	弥生前期			1	1
22	平	京都	滋賀里III	1			1	52	岡村	和歌山	長原			1	1
23	中臣	京都	船橋			1	1	53	竹内	奈良	滋賀里III	1			1
24	大宅鹿寺下層	京都	船橋			1	1	54	大福	奈良	滋賀里II 滋賀里III 長原 弥生前期			1	6
25	一乗寺向畑町	京都	長原			1	1	55	越部ハサマ	奈良	滋賀里III			2	2
26	北白川追分町	京都	滋賀里IV 長原			1	1	56	宮滝	奈良	弥生前期	1			1
						1	1	57	稲淵ムカダ	奈良	滋賀里I			1	1
27	下植野	京都	滋賀里IV 船橋	1		1	1	58	口酒井	兵庫	長原			2	2
28	今里	京都	長原			1	1	59	雲井	兵庫	長原			1	1
29	馬場	京都	滋賀里III			1	1	60	宮内	兵庫	船橋			1	1
30	開田城ノ内	京都	滋賀里IV 船橋			1	1	61	東武庫	兵庫	弥生前期			1	1

No. 21 長原式 → 長原

No. 42 B欄 → C欄の2

No. 52 府県欄 → 奈良